

## 第42回埼玉・群馬乳腺疾患研究会

日 時：平成 23 年 5 月 21 日 (土) 13:30~18:30  
会 場：大宮ソニックシティホール 4 階 国際会議室  
当番世話人：井上 賢一 (埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科)

### 〈セッション 1〉

#### 【症 例】

座長：林 祐二  
(埼玉県立がんセンター 乳腺外科)

#### 1. Fibromatosis の一例

遠藤まり子, 櫻井 孝志, 石井 嗣  
渋谷 肇, 内田 寛, 吉水 信就  
関 みな子, 唐橋 強, 中島顕一郎  
細田洋一郎 (埼玉社会保険病院 外科)  
清水 健 (同 病理部)

症例は 72 歳女性, 既往歴などには特記すべき事項なし. 某年 6 月に右乳房のしこりを自覚し, 8 月当院を受診した. 超音波検査で右乳房 9 時方向に 4 mm 径程度の hypoechoic mass を認めた. 穿刺吸引細胞診にて陰性判定のため経過観察となった. 同年 12 月の触診では 10mm 大に増大していたため針生検が行われ, 脂肪織に及ぶ紡錘形細胞の増殖がみられた. 確定診断のための腫瘍摘出術により病理学的に Fibromatosis と診断された.

Fibromatosis は乳腺に発生することはまれで, 頻度は 0.2%とされている. 肉眼的には不規則な星芒状を呈する弾性硬の腫瘍性病変を形成するため, 触診, 画像では悪性とくに浸潤癌が疑われることが多い. 組織学的には既存の乳腺構造を残しつつ間質に紡錘形細胞が増生する finger-like extension が特徴であり, 鑑別診断としては nodular fasciitis, phyllodes tumor などがあげられる. 文献的検討を加え症例を提示する.

#### 2. 術前 CT にて評価し得た double axillary vein の一例

藤井 孝明, 山口 悟, 矢島 玲奈  
堤 莊一, 浅尾 高行, 桑野 博行  
(群馬大院・医・病態総合外科学)

センチネルリンパ節 (SLN) 生検が標準術式となり, 腋窩郭清を省略する症例が多くなってきているが, 腋窩郭清を行うには, 腋窩の解剖学を十分理解することが必要である. 腋窩領域は解剖学的に variations が多いとされ

ているが, 解剖・手術書においても十分な記載がされていないことが多い. 腋窩静脈の解剖学的変異である double axillary vein は, 臨床でしばしば経験されるが, 今回, 術前 CT にて評価し得た double axillary vein の一例を経験したので, 文献的考察を加え報告する.

症例は 50 歳女性. clinical N0 の右乳癌に対し, 乳房切除, SLN 生検を施行し, SLN に転移を認めたため腋窩郭清を施行した. 術前造影 CT にて double axillary vein の所見を認めており, 術中所見では, double axillary vein の upper vein より外側胸静脈が, lower vein より胸背静脈が分岐する anomaly であった.

これまでに, double axillary vein は Kutiyawala らが報告している (Br J Surg 1998) が, 画像にて double axillary vein を評価した報告例は認められない. Kutiyawala らは, 100 手術症例の検討において, 腋窩静脈の解剖学的変異は 21 症例に認められ, double axillary vein は 10 症例に認められたと報告しているが, 術前造影 CT でも double axillary vein を診断可能な症例があることが示唆された. double axillary vein は, 決して稀な anomaly ではなく, 腋窩郭清を行う上で, 留意すべき anomaly であると考えられる.

#### 3. 局所再発を繰り返す男性乳癌として紹介された汗腺癌の 1 例

藤澤 知巳, 柳田 康弘, 平方 智子  
(群馬県立がんセンター乳腺科)  
飯島 美砂 (同 病理部)

74 歳男性. 2003 年に右胸壁に腫瘤自覚, 近医にて粉瘤の診断を受ける. 局麻下に切除されるも瘢痕部に腫瘤形成し total 3 回切除手術を受ける. 2007 年近医皮膚科受診, 病理検査にて carcinoma の診断, 根治目的に切除受けるも局所再発を繰り返していた. また全身精査にて肺転移を確認, 2009 年 1 月男性乳癌疑いにて当科紹介となる. 右 A 領域に径 2.5×2.5cm の可動性を伴う腫瘤を認める. 画像診断にて同側腋窩, 鎖骨上リンパ節及び両肺野に転移を認めた. 他院生検標本にて adenoca. ER (+), PgR (+), HER2 (-) にて右男性乳癌 stage IV と診断, 全